

企業・業界の垣根を越えて

日外協に「海外健康・医療グループ研究会」が新たに発足する。
参加予定企業の関係者に、期待や提案・要望をうかがった。

大切な横のつながり

トヨタ自動車(株)

海外の医療事情に関する最新の動向をはじめ、様々な面で情報共有、情報交換は重要と考える。研究会ができることでメンバー間の横のつながりができ、お互いにコミュニケーションが取れるようになれば、今まで自社では気付かなかった情報も得られるに違いない。当社の海外勤務者に対する健康維持支援の施策を検証することもできる。特に他業種との情報交換に期待している。



左から 安全健康推進部
高木ウエルボ所長
七浦統括産業医
(モニター画面 左: 柘植産業
医、右: 山本副統括産業医)

また、赴任中の健康診断、緊急対応、医療巡回など、当社の知見や取り組み事例を他社に伝えることで、何らかのお役に立てればと思っている。

多様性のある情報交換を

丸紅(株)

様々な業種の会員企業からなる日外協が、海外健康・医療分野への取り組みを強化することは大きな意義がある。

研究会メンバーは事務職と医療職。医師に加え、保健師・看護師が参加し、多様な視点から

活発な意見・情報交換が行われることを期待する。「健康経営」を掲げる当社は、海外赴任者も含めた健康診断受診率100%を目指す中で、海外赴任者の持病・慢性疾患への対応を強化しているところ。この種の取り組みについての情報を各社で共有できる意義は大きく、協力していきたい。



左から人事部 渡邊副部長、山口 国際人事課長補佐、村田国際人事課長、山澤産業医、鹿島執行役員・人事部長

民ならではのユニークな場

中外製薬(株)

グループ研究会への期待は、日本目線からだけでなく、環境の違う海外の様々な現場の声が聞けること。官とは違う民ならではの存在感が出せれば、ユニークな場になるかもしれない。

海外駐在員の医療費をどこまで会社が補助しなければならないのか、緊急搬送への対処はどうすればよいかなど、健康・医療分野はコロナ禍の影響もあって、新たな問題が次から次と出てきている。答えのない手探りの状況が続いているだけに、他社と情報交換ができることはとても貴重な機会だ。



左から人事部 畑社員、池田課長、富田保健師、鈴木統括産業医、山本グループマネージャー

ちょうどよいタイミング

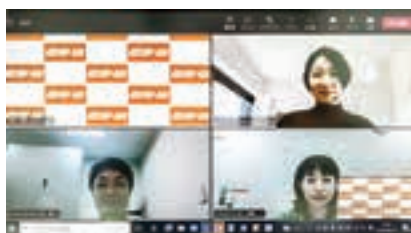
住友電気工業(株)

業種も派遣先国も違う他社の取り組みには非常に興味がある。

産業医はじめ医療従事者と、人事など事務職といった立場をあえて分けずにディスカッションしたい。互いに想定しなかったような意見も出て貴重な情報交換ができるのではないだろうか。

オンラインでの開催なら、関西地区以外の、東京・中部地区の会社とも情報交換できるのでありがたい。

駐在員の健康管理は、今後もっと力を入れていかなければいけない領域。本研究会の立ち上げは当社にとってちょうどよいタイミング。ぜひ積極的に参加したい。



下段左から森産業医、林主席、右上は岩名地担当

課題・事例の共有から

キヤノン(株)

研究テーマとしては、特にメンタルヘルスに関心がある。言葉の問題があるので、現地と日

本の専門医をどうつなぐかが課題。国や企業により、対応は変わってくるだろう。

企業の安全配慮義務の範囲が日本とは異なる海外では、企業ごとに悩みは様々。当面はテーマをがっちり固めないで、各社がどのような切り口で取り組んでいるのかなど、メンバー間で課題・事例を共有することからスタートしてはどうか。軌道に乗ってきたら、日外協の他のグループ研究会（海外安全、国際人事）のように、リーダー・サブリーダーの下、テーマを決めて進めるという方法も考えられる。



左から、安全衛生部 矢内副部长、鷹取部長、高橋専任主任

その他の声

- 他社との情報・意見交換を通じた学び合いを自社での対応策などに活かしたい（電機）
- 他社との意見交換や先行事例を知ることで、駐在員健康管理の改善・最適化を図る（化学）
- できるだけオープンな情報交換を（化学）
- 研究会の会合の内外で、活発な意見交換・情報共有ができることを期待（機械）
- 他社の関係者と気軽に本音で情報・意見交換できる場づくりを（機械）
- 特に海外勤務者に対するメンタルヘルスケアに関し情報交換を行いたい（電機）
- 事例紹介だけでなく積極的に意見を交わせる場になることを期待（繊維）
- 今後の海外勤務者の健康管理に活かしたい（化学）
- 専門家や他社から学ぶ貴重な機会（自動車）
- 諸外国における医療事情など（窯業）